



FUJI OIL GROUP 2014



Global & Quality



第86期 中間報告書

2013年4月1日から2013年9月30日まで

二つとない、をつくる。

 不二製油

証券コード：2607

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

世界の経済環境は、米国経済は回復基調に入ったように見えますが、一方、中国を中心にその他の新興国についてはこれまでの高い経済成長に減速感が出てきております。日本では、安倍首相の就任以来、アベノミクス効果により、株高や円安に移行し、一部高級品が売れるなどの現象も見られる一方で、一般の消費が上向くレベルまでには至っておりません。こうした経営環境の中、2013年度第2四半期連結累計期間の売上高は1,186億円となり前年同期から70億円の増収となりました。営業利益は64億円で前年同期比8億円の増益となりました。また、経常利益は63億円、四半期純利益は38億円となりともに前年同期比では増益となりました。

セグメント別では油脂部門が約5億円の増益、これは海外で増加した営業利益5億円が寄与しました。国内は、原料価格低下に伴う販売価格の低下と販売数量の減少でやや減益となりましたが、海外ではチョコレート用油脂の販売数量の増加と円安換算での増加もあり増収・増益となりました。製菓・製パン素材は、国内外ともにチョコレート、マーガリン、クリーム類が好調に推移し、海外では特に東南アジア、中国などの旺盛な需要増に対応し、チョコレート、クリーム、マーガリンの製菓3品が伸びました。

大豆たん白素材は増収となったものの、円安による原料価格上昇で採算が悪化し利益面では減益となりました。大豆たん白機能材は飲料用などが伸び、増収・増益、大豆たん白加工食品も中国での販売が増加し増収・増益となりました。大豆たん白部門全体としては減益となりました。

新たな挑戦として、大豆ルネサンス「USS事業」に着手しておりますが、「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されるようであり、これを機に和食のおいしさを再認識してもらい、日本から世界に新しい情報を発信できるチャンスが大いに広がると考えています。当社のUSS技術による低脂肪豆乳、



代表取締役社長 清水 洋史

豆乳クリームの素材用途を想定し、今までにはなかった味への挑戦、和と洋の融合など新しい使用方法の提案を実施していきたいと考えております。

私は、社員に対して「清く正しく、明るく元気に！」をモットーに仕事に取り組むように呼びかけております。「清く正しく」は社会の一員であることの自覚や、社会での公正さを意識したコンプライアンスの実践です。「明るく元気に！」は、社員がハツラツとして働き・暮らし、幸せになる、ということの意味です。これは「おいしさで健康」で社会に貢献する、不二製油の基本的な理念でもあります。社員があふれる「やる気と熱意」をもって働く会社にしていきたいと考えております。

最後になりましたが、株主の皆様には一層のご支援ご協力のほどお願い申し上げます。巻頭のご挨拶とさせていただきます。

売上高(百万円)



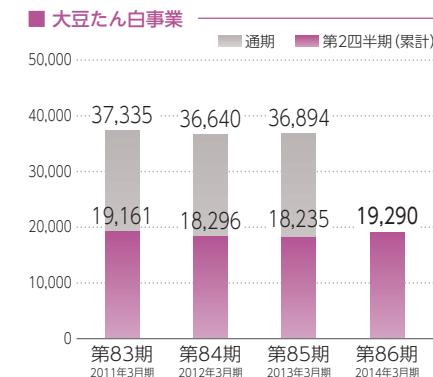
経常利益(百万円)



四半期(当期)純利益(百万円)



事業別売上高(百万円)



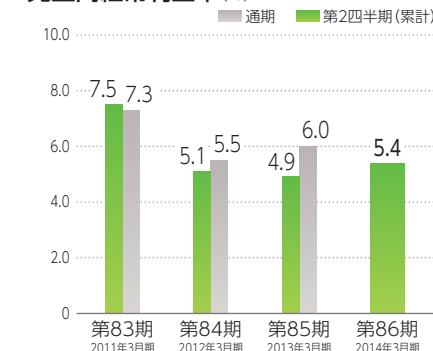
1株当たり四半期(当期)純利益(円)



1株当たり純資産額(円)

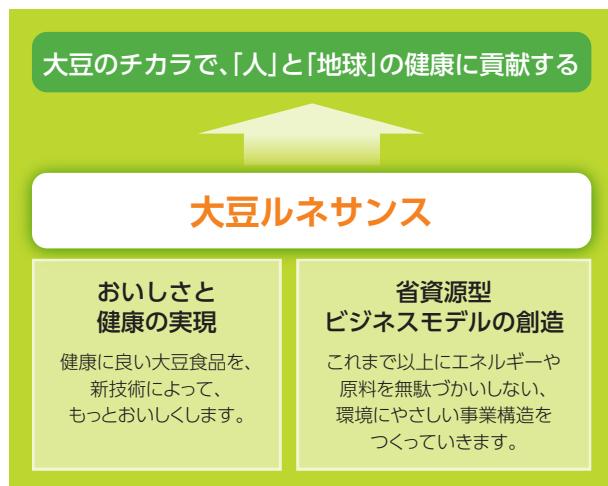


売上高経常利益率(%)



大豆の原点に戻り、新しい価値を創造する “大豆ルネサンス”

■ 中長期事業戦略「大豆ルネサンス」



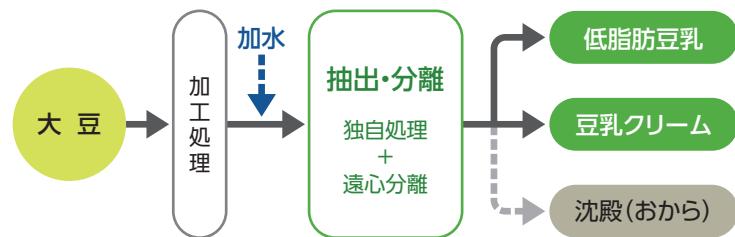
「豆乳クリーム」(左)と「低脂肪豆乳」(右)

大豆本来のおいしさを引き出す 世界初の「USS製法」

当社では、大豆本来のおいしさを引き出す「USS (Ultra Soy Separation) 製法」を開発しました。生乳の分離に近い方法であり、大豆からそのおいしさをそのまま損なうことなく「低脂肪豆乳」と「豆乳クリーム」の2つの素材をつくり出すことに、世界で初めて成功しました。

「低脂肪豆乳」は、これまでの豆乳に比べて低カロリーで、豆乳を苦手とする方々のほか、高コレステロールや乳製品アレルギーで牛乳を口にできない方々にも、おいしく飲んでいただけます。さらに、「低脂肪豆乳」には、ダシと同様の働きがあり、素材と合わせると旨味を広げるという特長があります。また、「豆乳クリーム」には、牛乳を原料とするようなコクと旨味があるため、加工食品や料理への広い応用が可能です。

■ 「豆乳クリーム」と「低脂肪豆乳」をつくるUSS製法



当社は2012年、大豆事業の中長期事業戦略“大豆ルネサンス”を発表し、大豆の原点に戻り、大豆の可能性をさらに引き出し、新しい価値を創造することで「人」と「地球」の健康に貢献していくことを宣言しました。本特集では、その後の“大豆ルネサンス”への具体的な取り組みについてご紹介します。

子供から高齢者まで、さらに食べやすく —大豆たん白調理素材「まめプラス」

当社は2012年、大豆たん白調理素材「まめプラス」シリーズを発売しました。高たん白・低脂肪のヘルシーな食品素材を従来以上に使いやすく、食べやすい形態にすることで、メニューが広がり、すでに小学校の学校給食に採用されています。また、2013年3月には「ベジプラス2900」を発売し、独自の技術によりスライス肉の食感をもった大豆たん白素材を実現しました。

大豆には、成長期の子供にとってアミノ酸のバランスが良いという特長のほか、生活習慣病の原因となる動物性脂肪を含まないといった利点があります。今後も、当社は子供から高齢者まで幅広い層に向けて、健康に配慮した食品素材を提供していきます。



まめプラスを使った
ミートソース風スパゲティ



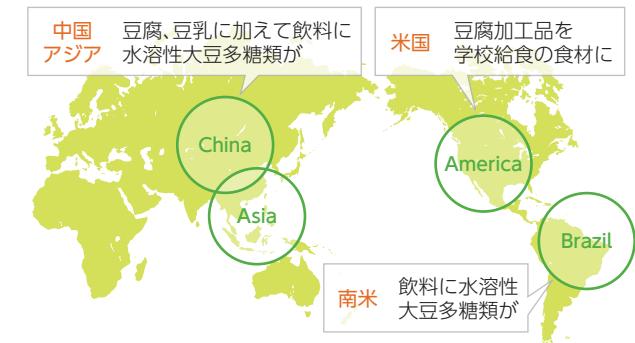
まめプラス

“大豆ルネサンス”を世界へ

米国では、2012年に学校給食の新基準がつけられ、大豆加工食品が導入されるなど、健康増進に役立つ食材として大豆が社会的に認知され始めています。こうした状況の中、当社グループは、豆腐ナゲットなどの大豆加工食品を学校給食などの業務用市場に販売、提供しています。また、古くから豆腐や豆乳に慣れ親しんできた中国などのアジア諸国においても、豆乳デザートや飲料添加剤「水溶性大豆多糖類」の販路を広げ、需要の高まりに応えています。

このように当社グループは、世界各国への製品供給力を強化することで、“大豆ルネサンス”を世界中に広げていくことを目指します。

■ 世界各地で高まる大豆へのニーズ



上期のご報告

2014年3月期連結「上期業績」と「通期見通し」

連結決算 上期業績 (2013年4月1日～2013年9月30日)

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、景気動向・企業収益は回復の兆しが見られ、株価も堅調に推移いたしましたが、貿易収支赤字・デフレの長期化・雇用環境の低迷等が継続し、不安定な経済情勢が続きました。また海外では、米国経済の回復が見られたものの、新興国の経済成長の鈍化が継続し、国内外で不透明な経済情勢が続きました。

当社グループを取り巻く国内食品業界では、消費者の低価格志向は依然強く、円安による原料価格上昇を含め、厳しい事業環境が続きました。この様な状況の中、当社グループは中期経営計画「Global&Quality 2013」を掲げ、「グローバル経営の推進」「技術経営の推進」「サステナブル経営の推進」を方針として、顧客ニーズに即した製品開発、高機能素材の供給、生産コストの削減に取り組んでまいりました。

油脂事業

- 国内では、ヤシ油・パーム油等の主要原料価格下落による販売価格低下と、ヤシ油・パーム油・調合油・チョコレート用油脂の販売数量減少により、減収・減益となりました。
- 海外では、チョコレート用油脂は、欧米の販売数量の増加により増収となり、円安による円換算価格の増加も寄与して増収・増益となりました。

製菓・製パン 素材事業

- 国内では、業務用チョコレートは、洋生チョコの販売が減少しましたが、スイートチョコ・アイスコーティングチョコ・カラーチョコの販売が増加して、増収となりました。クリームは、デザート・飲料向けが好調に推移して増収となり、フィリングはパン用の販売が増加して、増収となりました。調製品では、粉乳調製品の販売が増加し、増収となりました。国内全体では、増収・増益となりました。
- 海外では、業務用チョコレート・クリーム・マーガリン・ショートニングの東南アジアでの販売が好調に推移して増収・増益となりました。

大豆たん白 事業

- 大豆たん白素材は、冷食・惣菜・健康食品・発酵培地用途が増加して増収となりましたが、円安による原料価格上昇の影響を受けて採算が悪化しました。
- 大豆たん白機能剤は、飲料・発酵培地用途・輸出が増加して、増収となりました。
- 大豆たん白食品は、即席用途が減少しましたが、中国での販売が増加して増収となりました。
- 部門全体では増収となりましたが、大豆たん白素材の採算悪化の影響により大きく減益となりました。

(単位:億円)

	2014年3月期 上期 (2013年4月1日～2013年9月30日)			2014年3月期 通期 (2013年4月1日～2014年3月31日)		
	2014年3月期 上期業績	ご参考		2014年3月期 通期見通し	ご参考	
		対前年同期	対前年同期 増減率		対前期	対前期増減率
売上高	1,186	+ 70	+ 6.3%	2,648	+ 326	+ 14.1%
営業利益	64	+ 8	+ 14.3%	160	+ 18	+ 13.1%
経常利益	63	+ 9	+ 17.3%	156	+ 17	+ 12.7%
純利益	38	+ 6	+ 20.8%	94	+ 10	+ 12.8%

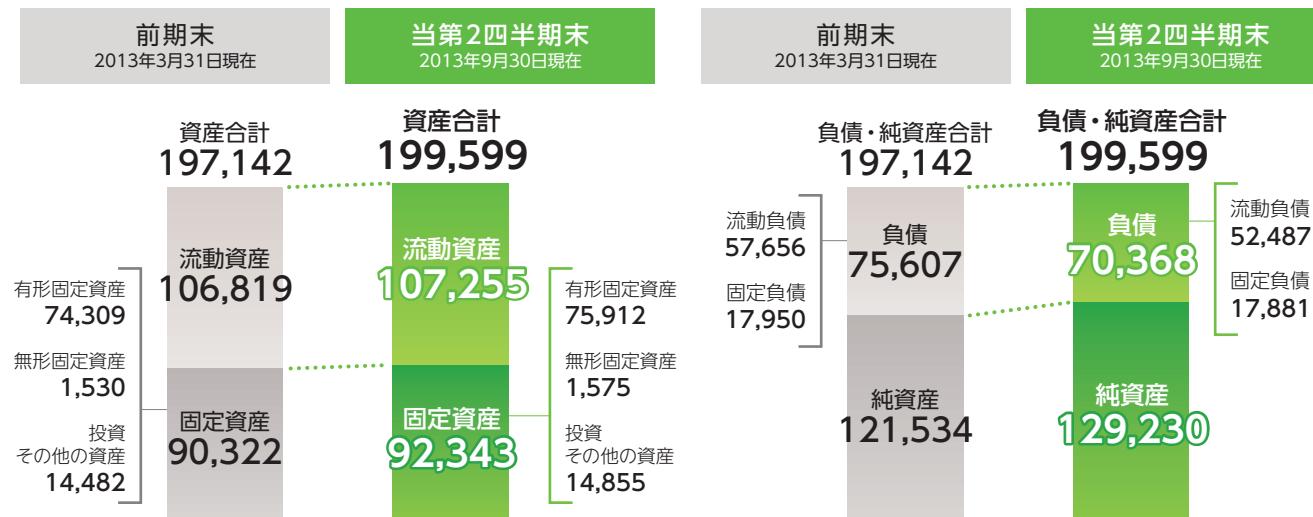
(注) 記載金額は億円未満を切り捨てて表示しております。

将来見通しに関する注意事項

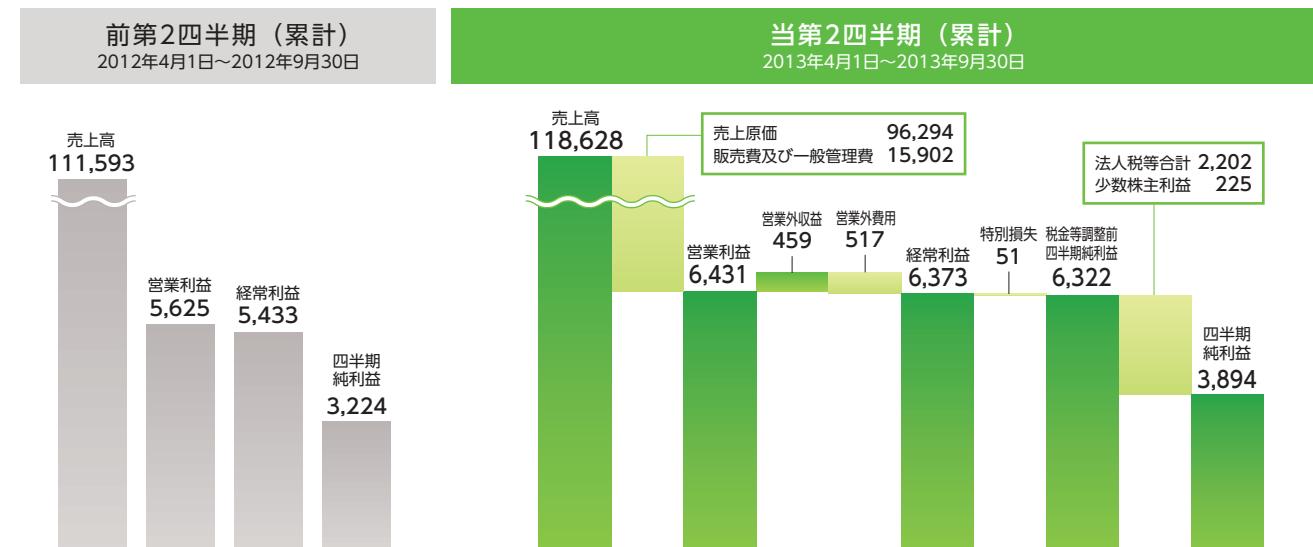
上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

四半期連結財務諸表

◆ 四半期連結貸借対照表の概要 (単位:百万円)



◆ 四半期連結損益計算書の概要 (単位:百万円)



トピックス

「不二パティシエサミット」を開催

当社は、2013年6月13日「不二パティシエサミット」を開催しました。不二パティシエサミットは、パティシエの方々を対象に当社の製品を紹介するとともにご意見をいただく場として開催しています。当日は全国から19名のトップパティシエにお集まりいただき、当社製品について多くのご意見をいただきました。



当社からは大豆事業の中長期事業戦略「大豆ルネサンス」や大豆分離分画技術「USS製法」についてのプレゼンテーション、「USS製法」による低脂肪豆乳、豆乳クリームのご紹介を行いました。また、当社はこれまで培ってきた乳化・発酵技術を注ぎ込んだ最高品質の製品のみをラインナップする新ブランド「CLASS-F」を立ち上げ、本サミットで初披露しました。



食品たん白質や医薬品が生体内へ吸収される仕組みを世界で初めて解明

静岡県立大学・伊藤圭祐氏ら研究グループが、このたび食品たん白質や医薬品の吸収を担うペプチド輸送体（アミノ酸が直鎖状につながった“ペプチド”を生体内へ取り込む分子）について、その全体像を世界で初めて解明しました。本研究は、当社との共同研究によって実施され、大豆ペプチドの優れた吸収性が解明されたことにより、今後、経腸栄養剤、スポーツ用途食品、発酵培養基材、医薬品の開発に大豆ペプチドが大きく貢献すると期待されています。

本研究内容の詳細につきましては、静岡県立大学のリリース（以下のURL）にてご覧いただけます。
http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/news_topics/news_20130924/index.html

エコレールマークの企業認定取得

当社は、このたび国土交通省・鉄道貨物協会より、地球環境に優しい鉄道貨物輸送を積極的に行っている企業として「エコレールマーク取り組み企業」の認定を受けました。当社物流部門では、トラック輸送に比べCO₂の排出量が1/6といわれる鉄道貨物輸送へのモーダルシフトを積極的に取り入れてきました。2006年度の鉄道貨物輸送量、約4,500トンに対し、2012年度は21,857トンの製品出荷実績と、約5倍の物量を鉄道貨物輸送に移行しています。このたびのエコレールマーク認定は、これらの取り組みが評価されたことによるものです。



CSR活動

「不二製油CSRレポート2013」発行について

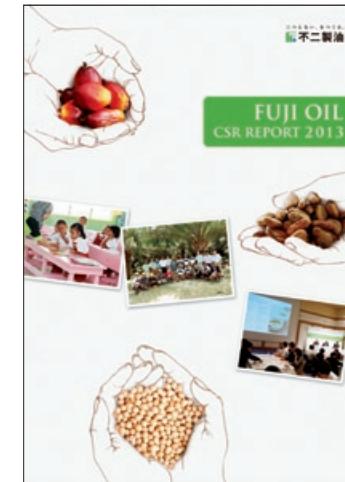
当社は、このたび「不二製油CSRレポート2013」を発行しました。本年度は重要度の高い活動報告を本レポートに、それ以外の活動内容を含む網羅的な報告をWEBサイトに掲載しております。

本年度の特集では、2012年に発表した、大豆の原点に戻り、大豆の可能性をさらに引き出し、新しい価値を創造することで「人」と「地球」の健康に貢献していくことを目的とした大豆事業の中長期事業戦略である「大豆ルネサンス」の紹介をはじめ、自然資本を扱う企業の責任として、原料の調達先であるパーム農園の視察、人権や環境問題への取り組み状況などについて概要をご紹介します。

本レポートは、当社ホームページの以下のURLでもご覧いただくことが可能です。

「不二製油CSRレポート2013」WEBサイト

<http://www.fujioil.co.jp/fujioil/approach/approach004.html>



不二製油CSRレポート2013

マレーシアのパーム農園視察について

当社は「生産者の顔が見える調達」への取り組みの一環として、2013年6月、マレーシアのクアラルンプールケボン（KLK）社が保有するボルネオ島サバ州のパーム農園・搾油工場と製油工場を視察のため訪問しました。



KLKサバ社員(左3名)と当社視察員(右2名)

KLK社は、約25万ヘクタールのパーム農園を保有する大手パーム油メーカーであり、マレーシアとインドネシアでパーム農園を運営し、搾油から精製までを一貫して手掛けています。当社は日本最大のパーム油取り扱いメーカーとして複数の取引先から調達していますが、同社はその中でも重要な一社です。



パーム農園視察の様子

株式情報

◆ 株式の状況

(2013年9月30日現在)

発行可能株式総数 357,324,000株
 株主数 14,146名
 発行済株式の総数 87,569,383株
 一人当たり平均所有株式数 6,190株

◆ 大株主

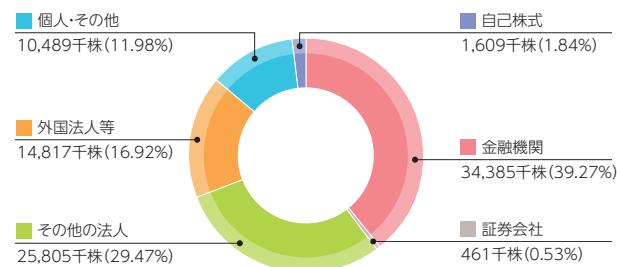
(2013年9月30日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
伊藤忠商事株式会社	17,831	20.74
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,403	6.29
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,693	5.46
野村信託銀行株式会社(信託口)	3,153	3.67
全国共済農業協同組合連合会	2,509	2.92
東京海上日動火災保険株式会社	2,400	2.79
株式会社三井住友銀行	1,875	2.18
農林中央金庫	1,825	2.12
日本生命保険相互会社	1,800	2.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(三井住友信託連合口)	1,739	2.02

持株比率は自己株式(1,609千株)を控除して計算しております。

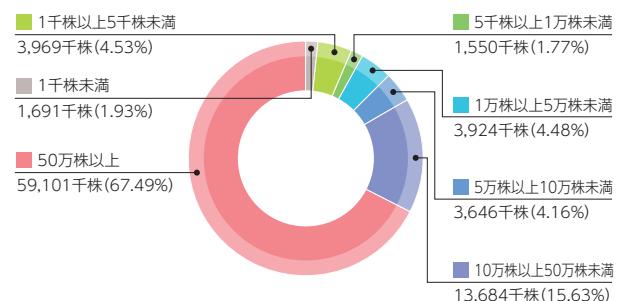
◆ 所有者別株式分布状況

(2013年9月30日現在)

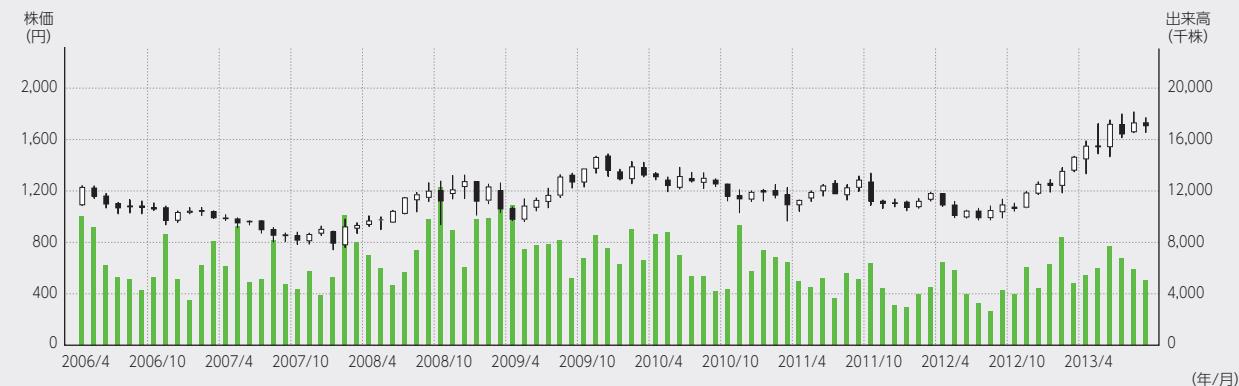


◆ 所有株数別株式分布状況

(2013年9月30日現在)



◆ 株価の推移



会社情報

◆ 会社概要

(2013年9月30日現在)

創 立 1950年(昭和25年)10月
 資 本 金 13,208百万円
 全グループ従業員数 4,536名
 不二製油従業員数 1,179名

◆ 役員

(2013年9月30日現在)

代表取締役会長	海老原 善 隆
代表取締役社長	清水 洋 史
取締役専務執行役員	山中 敏 正
取締役専務執行役員	中村 修 修
取締役専務執行役員	岡本 和 三
取締役常務執行役員	高木 茂 茂
取締役常務執行役員	寺西 進 進
取締役常務執行役員	前田 裕 一
取締役常務執行役員	内山 哲 也
取締役常務執行役員	西村 一 郎
取締役常務執行役員	久野 貢 貢
取締役執行役員	小林 誠 誠
取締役執行役員	木本 実 実
取 締 役	三品 和 広
常 勤 監 査 役	岩 朝 央
常 勤 監 査 役	古 城 茂 穂
監 査 役	松 本 稔
監 査 役	江 名 昌 彦

◆ 連結上期業績概要

(2013年9月30日現在)

連 結 売 上 高 118,628 百万円
 連 結 経 常 利 益 6,373 百万円
 連 結 総 資 産 199,599 百万円

◆ 主要海外グループ会社

(2013年9月30日現在)

フジオイル(シンガポール)	ウッドランド サニーフーズ
フジオイル アジア	パルマジュ エディブル オイル
フジベジタブル オイル	フジ オイル ヨーロッパ
ニューレイト エディブル オイル	フレリアバディ インドタマ
フジオイル(タイランド)	ムシム マス-フジ
フジオイル サウス アメリカ	不二製油(張家港)有限公司
吉林不二蛋白有限公司	山東龍藤不二食品有限公司
上海旭洋綠色食品有限公司	深圳旭洋綠色食品有限公司
天津不二蛋白有限公司	不二富吉(北京)科技有限公司

◆ 主要国内グループ会社

(2013年9月30日現在)

トーラク 株式会社	フジフレッシュフーズ 株式会社
株式会社 フジサニーフーズ	株式会社 エフアンドエフ
株式会社 阪南タンクターミナル	
千葉ベグオイルタンクターミナル 株式会社	
オーム乳業 株式会社	

株式のご案内

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで		
定時株主総会	6月開催		
基準日	定時株主総会	3月31日	
	期末配当金	3月31日	
	中間配当金	9月30日	
	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日		
株主名簿管理人 および特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社		
株主名簿管理人 事務取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部		
公告掲載新聞	日本経済新聞		
上場証券取引所	東京		
証券コード	2607		

株主の皆様のお声を聞かせてください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではありますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。



<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 2607



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入) アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で厚謝(図書カード500円)を贈呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(エーツーメディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社 a2mediaについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ
[e-株主リサーチ事務局]

TEL:03-5777-3900 (平日 10:00~17:30)
MAIL:info@e-kabunushi.com

株式に関するお手続きについて

■ 証券会社でお取引をされている株主様

お手続き お問い合わせ先	お取引のある証券会社	
お手続き内容	住所・氏名等のご変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受領方法・振込先のご変更等	
留意事項	未払配当金のお支払、郵送物の発送と返戻に関するご照会につきましては、株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社 証券代行部が承ります。	

■ 特別口座に記録されている株主様

お手続き お問い合わせ先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部	
〈郵便物送付先〉	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号	
〈電話照会先〉	0120-782-031	
〈ホームページ〉	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html	
お手続き内容	特別口座から一般口座への振替請求、住所・氏名等のご変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受領方法・振込先のご変更、未払配当金のお支払、郵送物の発送と返戻に関するご照会等	
特別口座での 留意事項	特別口座では、株式の売却はできません。売却するには、証券会社に口座を開設したうえで株式の振替手続きが必要となります。	

[特別口座について]

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様のご所有株式は三井住友信託銀行株式会社に開設された口座(特別口座)に記録されております。

特別口座の詳細につきましては、上記三井住友信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。

二つとない、をつくる。

 **不二製油**
<http://www.fujioil.co.jp>

 UD FONT

 ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
www.fsc.org
FSC® C022337